

脱穀体験

秋晴れの中、西吉富小学校の5年生が、脱穀体験をしました。

1ヶ月余り、掛け干しにした稲を、地域づくり活動団体「おいげんき会」の皆さんの指導を受けながら足踏み脱穀機を使って脱穀をしました。子どもたちは、踏み込む強さが解らず、四苦八苦しての脱穀体験でした。脱穀した後の稲は、とうみのを使って選別する体験もしました。

またJA福岡京築の皆さんからは、脱穀と選別が一度にできるハーベスターを使った作業の指導を受け、手作業から、機械化された農業の変化を体験を通して学ぶことができました。



さわやか市「大平」

☎72-3945

道の駅「しんよしみ」

84-7077



食卓の名脇役

森口 一義、陸江さん(東上)

ねぎ

九条ねぎは長くて、深い緑の葉の部分が柔らかく風味が豊かで、内部にぬめりが多いのが特徴です。そのぬめりがねぎの甘みを増し、魚肉の生臭さを消したり、体を温める働きがあります。ねぎは和食、洋食、中華などどんな料理にも利用できますので、食卓の名脇役となる野菜のひとつです。



日本の食文化を代表する発酵食品

瀬口 一夫、英子さん(緒方)

ぬか漬け

ぬか漬けは日本が誇るすばらしい発酵食品です。ぬかの乳酸菌・ビタミンB群が食材に吸収され、うまみが生まれ香りがつくため食物繊維が多い野菜も食べやすくなる効果があります。季節の野菜をいろいろ漬けていただきますので、さっぱりとした旬の漬物の味をご家庭で楽しんでください。

地産地消レシピ

米粉ホワイトシチュー



材料 一人分

- 鶏もも肉 50 g
- 玉ねぎ 75 g
- にんじん 30 g
- じゃがいも 75 g
- ブロッコリー 1/4個
- 米粉 5 g
- 豆乳 100 g
- 塩 小々
- こしょう 小々
- オリーブオイル 少量
- 水 50 cc

- ① 鶏肉を2cm角に切り、フライパンにオリーブオイルを少量入れ、皮目から並べて表裏に焦げ目がつくまでよく炒める。
 - ② 玉ねぎはくし切りにし、人参、じゃがいもは皮をむいて乱切りにしておく。
 - ③ ブロッコリーは小房に分け、芯の部分も厚めに皮をむいて食べやすい大きさに切り、塩少々(分量外)を入れた熱湯でサッと色よくゆでる。
 - ④ 鍋に①と②を入れ水50ccを加え、柔らかくなるまでゆっくりと煮る。
 - ⑤ Aを混ぜておく
- 野菜に火が通ったらAを鍋に入れ、軽く煮てとろみが出たら③でゆでたブロッコリーをまぜてできあがり。

●問い合わせ先 教務課 学務係 TEL 72-3111(内線175)

ひぐまじょう
日熊城
か
の
ばる
桑野原の戦い
ひぐまじょう
日熊小次郎は日熊城(※1)に立て籠もり、黒田
ちやんけん
由の嫡男(※2)の率いる黒田軍と対峙(たいじ)します。そ
などの上毛衆が応援に駆けつけ、黒田軍と壮絶な
われました。上毛衆の敗北で一揆は沈静化したと
きい
城井城主(※3)宇都宮鎮房が旧領土を黒田方から
先の敗戦で居城に逃げ帰っていた上毛衆たち
友枝村(ともえむら)と唐原村の境にあった桑野原(※4)で再び
か
の
ばる
ます。上毛衆も奮闘し、黒田軍で槍の名手として
またべえ
又兵衛に深手を負わせるなど善戦しましたが
黒田軍には太刀打ち出来ず、雁股城主友枝大
か
の
う
め
つ
松城主内尾主水允は、先に黒田に降っていた
かわのなかみ
河内守を頼って降伏しました。

こうげのみとき
上毛風土記

Vol
94

天正十五年十月
「西曆一五八七年」

戦い

日熊小次郎は日熊城(※1)に立て籠もり、黒田吉兵衛(勘解由の嫡男(※2))の率いる黒田軍と対峙します。そこに緒方帯刀などの上毛衆が応援に駆けつけ、黒田軍と壮絶な合戦がおこなわれました。上毛衆の敗北で一揆は沈静化したようでしたが、城井城主(※3)宇都宮鎮房が旧領土を黒田方から奪い返すと、先の敗戦で居城に逃げ帰っていた上毛衆たちも勢いづき、友枝村と唐原村の境にあった桑野原(※4)で再び黒田軍と戦います。上毛衆も奮闘し、黒田軍で槍の名手として有名な後藤又兵衛に深手を負わせるなど善戦しましたが、百戦錬磨の黒田軍には太刀打ち出来ず、雁股城主友枝大膳丞は討死、叶松城主内尾水允は、先に黒田に降っていた百富城主百富河内守を頼って降伏しました。



※1 道の駅「しんよしとみ」の北側

※2 正室との間に生まれた長男

※3 現在の築上町にあった

※4 文献には「観音原」とある

※黒田勘解由…黒田孝高（官兵衛・如水） ※日熊小次郎…日熊直次 ※黒田吉兵衛…黒田長政 ※緒方帯刀…緒方惟綱 ※後藤又兵衛…後藤基次 ※内尾主水允…内尾兼元 ※百富河内守…百富兼貞

こう げ しゅう
上毛衆とは

戦国大名の勢力下にあるものの、旧豊前国上毛郡（現在の**上毛町**、**吉富町**、**豊前市**）を実質的に支配していた土豪（在地領主）やその家臣、またはそれらと主従関係を結んでいた地侍などの戦国武将団のことをいい、現在の**上毛町**には土豪達の城や砦が21ヶ所ありました。

安土桃山時代になり、新しい領主となった**黒田勘解由**に実質的な支配権を奪われると、それに反発した**上毛衆**が蜂起し、**黒田方**との間で二度にわたる合戦がありました。

- 日熊城・桑野原の戦いに参加した上毛衆／日熊小次郎 緒方帯刀、緒方判允、内尾主水允、友枝大膳丞、友枝新兵衛など
- 日熊城の戦いの以前に黒田側についた上毛衆／吉岡備前守
- 桑野原の戦いの後に黒田側についた上毛衆／百富河内守
- 戦国時代の間、現在の上毛町で城主（城代）であった上毛衆／秋吉青岐守、矢方次郎、矢方兵部丞、尻高五郎左衛門、葉丸備前守、代金信濃守、成相越中守、内尾彦五郎、友枝太郎左衛門、友枝忠兵衛、友枝村人佐など
- 現在の豊前市などから応援に来た上毛衆／鬼木掃部丞、如法寺孫二郎、城井弥七郎、八屋刑部、山田大膳正、山田幹陸介、小畑長重、多田弾正など
- 日熊城・桑野原の戦いで黒田軍と戦った日熊小次郎、友枝大膳丞の家臣／片山左近、吉崎判部、木村仙之助、岡崎隼人、園田四郎など

大分県中津市上空から見た上毛町



桑野原の合戦場